衣座室御書

正嘉元年　三六歳

法師品に云はく「薬王其れ法華経を読誦(どくじゅ)すること有らん者は、当に知るべし、是の人は仏(仏とは如来なり)の荘厳(しょうごん)を以て自ら荘厳するなり」と。

- 戒聖行 ― 円頓戒
- 定聖行 ― 円頓定
- 慧聖行 ― 円頓慧

玄義(げんぎ)の四に云はく「文に云はく、如来荘厳而自荘厳とは、即ち円の聖行(しょうぎょう)なり」と。法師品に云はく「如来の室に入り、如来の衣を著、如来の座に坐して、爾して乃(いま)し応に四衆の為に広く斯(こ)の経を説くべし」と。経釈に云はく「如来の室(梵行の中の慈悲喜なり)とは一切衆生の中の大慈悲心是なり」と。玄義(げんぎ)に云はく「如来の室とは即ち円の梵行(ぼんぎょう)なり」と。法師品に云はく「如来の衣とは柔和(にゅうわ)(嬰児行)忍辱(にんにく)(病行)の心是なり」と。玄義の四に云はく「如来の衣に二種あり。柔和は即ち円の嬰児(ように)行なり。忍辱(にんにく)は即ち円の病行(びょうぎょう)なり」と。法師品に云はく「如来の座とは一切法空是なり」と。玄義の四に云はく「如来の座とは即ち円の天行なり」と。

十信、十住、十行、十回向

- 別教初地の五地
  - 不動地 ― 戒
  - 堪忍(かんにん)地 ― 定
  - 無畏(むい)地 ― 慧
  - 聖行(しょうぎょう)
  - 一子地 ― 慈悲喜
  - 空平等地 ― 捨
  - 梵行(ぼんぎょう)

天行は、二地已上。

嬰児行・病行は、五地の菩薩、天行の菩薩の示現なり

- 初住の五地
  - 不動地 ― 円戒
  - 堪忍地 ― 円定
  - 無畏地 ― 円慧
  - 名字(みょうじ)
  - 一子地 ― 円慈悲喜 ― 観行(かんぎょう)
  - 空平等地 ― 円捨 ― 相似(そうじ)

日　蓮　花押